

設計調書作成(H24)

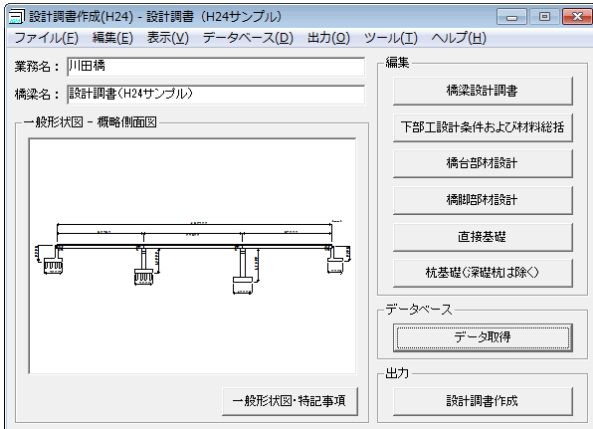
土木・建築設計計算 SUCCES

「下部工統合システム」オプション 道路橋示方書（平成24年3月版）、杭基礎設計便覧（平成18年度改訂版）対応「SUCCES」シリーズの橋梁下部工関係の各アプリケーションのデータを利用して、建設省大臣官房技術調査室「詳細設計照査要領」（平成11年3月）に対応した設計調書（橋梁設計調書・下部工設計調書・基礎工設計調書）を作成します。

製品特長

プログラムの詳細

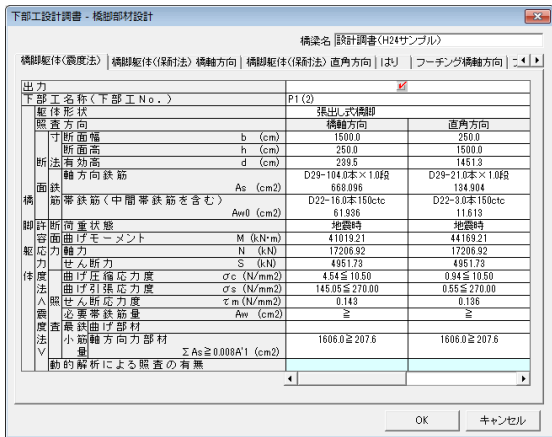
■「下部工統合システム」上で動作させることで、設計者が各設計計算書から転記していた設計調書の作成を橋梁全体の物件単位で簡単に行えます。



■設計調書に表示されるデータは、「下部工統合システム」のデータベースから下部構造物および各設計調書の種類別に取得できます。



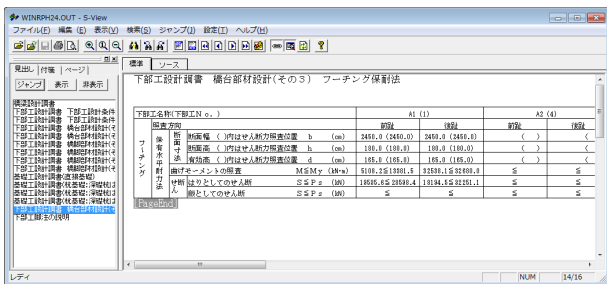
■設計調書の取得データの変更および追記もできます。



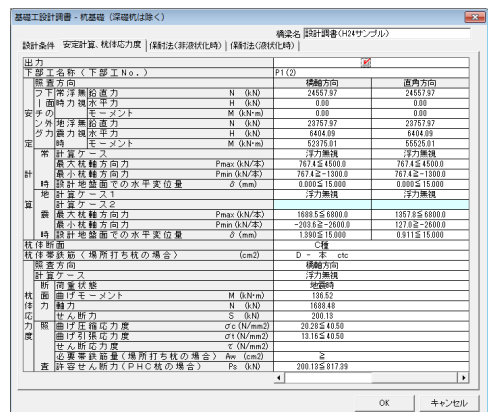
■『S-View』での出力に加え、「Excel」への出力も可能です。※実行環境にMicrosoft「Excel」がインストールされている必要があります。



■平成14年示方書に対応し、液状化地盤上の橋台基礎の保耐法の結果も出力できます。



■「杭基礎設計便覧」（平成18年度改訂版）に対応し、スパイラル鉄筋を考慮したPHC杭のせん断力照査結果も出力できます。



システムの適応範囲

▶最大径間数

・30径間

▶最大下部工基数

・31基

▶「詳細設計照査要領 建設省大臣官房調査室監修」（平成11年4月）に対応する調書形式

- ・梁設計調書
- ・下部工設計条件および材料総括（その1）
- ・下部工設計条件および材料総括（その2）
- ・橋台部材設計（その1）胸壁、たて壁
- ・橋台部材設計（その2）フーチング、翼壁
- ・橋脚部材設計（その1）橋脚躯体（震度法）
- ・橋脚部材設計（その2）橋脚躯体（保耐法）
- ・橋脚部材設計（その3）はり
- ・橋脚部材設計（その4）フーチング
- ・基礎工設計調書（直接基礎）
- ・基礎工設計調書（その1）設計条件
- ・基礎工設計調書（その2）安定計算、杭体応力度
- ・基礎工設計調書（その3）地震時保有水平耐力法
- ・橋台部材設計（その3）フーチング保耐法

動作環境 ※連携可能なバージョンの「下部工統合システム」が必要です。

OS	Microsoft Windows 11,10 ※Windows動作保証の最新情報は こちら	ハードディスク	OSのシステム要件を満たし、問題なく動作する環境
メモリ	OSのシステム要件を満たし、問題なく動作する環境	ディスプレイ	1280×1024以上が表示可能なもの

※必要メモリ等はシステム環境によって異なる場合がありますのでご注意ください。